

[成果情報名] 諫早湾干拓地におけるタマネギの新規導入品種の特性

[要約] 「マカル」「シビア」「エレメント」は諫早湾干拓地の特別栽培基準での栽培が可能である。「マカル」「シビア」は作型分散が期待できるが、「もみじ3号」並みの糖度・乾物率は無い。「エレメント」は作型、糖度、乾物率ともに「もみじ3号」並みである。

[キーワード] 加工業務（ソテー）用タマネギ、諫早湾干拓地、特別栽培、「マカル」、「シビア」、「エレメント」、「ブリッジャー」、「もみじ3号」

[担当] 長崎県農林技術開発センター・干拓営農研究部門

[連絡先] 電話（直通）0957-35-1272

[区分] 総合・営農（干拓）・野菜

[分類] 指導

[作成年度] 2013 年度

[背景・ねらい]

諫早湾干拓地では加工業務用タマネギの生産が盛んに取り組

まれており、主にスープ原料を目的としたソテー用のサプライチェーンが構築されている。ソテー用には高糖度・低水分が求められるため、晩生品種「もみじ3号」が好まれ、規格は2L・Lが求められている。しかし、定植作業・収穫作業が集中し、作業の分散が求められている。

そこで、新規導入された「マカル」「シビア」「エレメント」「ブリッジャー」について、諫早湾干拓地における栽培適性および作型、品質を「もみじ3号」と比較調査する。

[成果の内容・特徴]

1. 「マカル」「シビア」「エレメント」は干拓の目標収量6 t/10a をクリアし、特別栽培基準の施肥体系での栽培に適する。「ブリッジャー」は倒伏前に地上部が枯れ、目標収量に達しない（表1, 2）。
2. 「マカル」は「もみじ3号」と比較すると、収穫日は約1ヵ月程度早く、商品収量は84%とやや低く、2L・Lの収量も75%と低い。また、糖度および球の乾物率も低い（表1, 2）。
3. 「シビア」は「もみじ3号」と比較すると、収穫日は約2週間程度早く、商品収量は116%と高いが、3Lが約20%（個数）あるため、2L・Lの収量は81%と低い。また糖度及び球の乾物率は低い（表1, 2 図1, 2）。
4. 「エレメント」は「もみじ3号」と収穫日、商品収量はほぼ同じであるが、3Lが約10%（個数）あるため、2L・Lの収量は対象品種の83%にとどまる。糖度及び球の乾物率もほぼ同じである（表1, 2 図1, 2）。
5. 「ブリッジャー」は倒伏せず、十分肥大する前に地上部が枯れはじめたため、商品収量は「もみじ3号」の59%と低く、Mや規格外が約40%（個数）あるため、2L・Lの収量も47%と低く、収量が低い（表1, 2 図1, 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「マカル」は総収量に占める2L・L割合が高く規格も揃っているため、サラダ等のカット用の用途が期待できる。
2. 「シビア」は3Lの割合が高く、大玉が期待できるため、規格に縛られない加工業務用途に期待できる。
3. 4品種はいずれもベジージャパンの品種である。
4. 「マカル」「シビア」は定植日を早め、早生の対照品種と改めて比較試験を行う。
5. 本作はタマネギ栽培に適した年であり、例年より約30%収量が高かった年の調査結果である。

[具体的データ]

表1 諫早湾干拓地における各品種のタマネギの収量

品種	総収量 (kg/10a)	商品収量 (kg/10a)	2L・L収量 (kg/10a)	商品化率	2L・Lの割合		対照品種比		
					個数	重量	総収量	商品収量	2L・L収量
マカル	8,317	8,071	6,970	97%	75%	84%	85%	84%	75%
シビア	11,514	11,119	7,517	97%	69%	65%	118%	116%	81%
エレメント	10,069	9,651	7,667	96%	79%	76%	103%	100%	83%
ブリッジャー	6,480	5,687	4,369	88%	59%	67%	66%	59%	47%
もみじ3号 (対照品種)	9,792	9,606	9,265	98%	91%	95%	—	—	—

表2 各品種の倒伏時期及び糖度及と乾物率

品種	倒伏日	収穫日	糖度 Brix%	乾物率	
				球	葉
マカル	2013/4/30	2013/5/7	6.55	7.5%	8.4%
シビア	2013/5/17	2013/5/23	7.30	7.9%	8.7%
エレメント	2013/5/24	2013/5/30	8.43	9.7%	10.4%
ブリッジャー	倒伏せず	2013/6/18	8.39	9.7%	26.8%
もみじ3号 (対照品種)	2013/5/27	2013/6/4	8.86	10.0%	9.5%

※倒伏から1週間後を目安に調査した

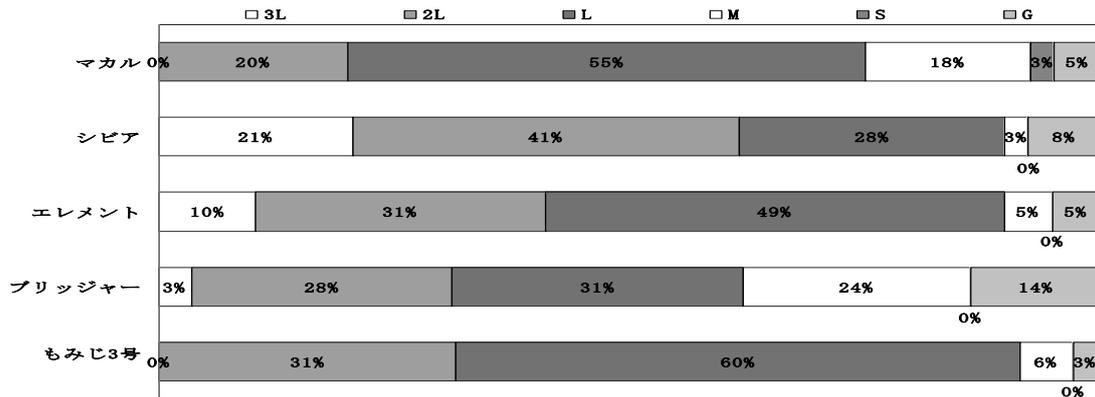


図1 各品種の規格割合 (個数)

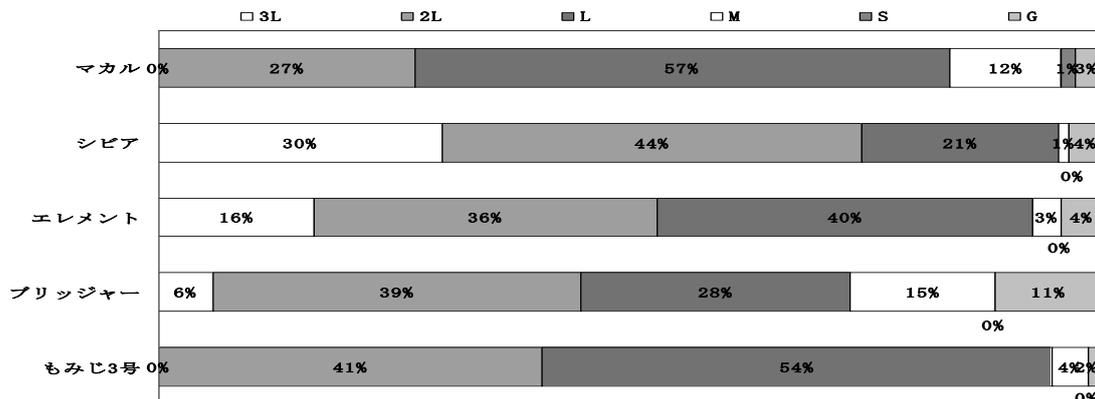


図2 各品種の規格割合 (重量)

[その他]

研究課題名：大規模環境保全型農業生産技術体系の構築
 予算区分：県単
 研究期間：2012-2013年度
 研究担当者：平山裕介
 既発表論文等：なし

耕種概要

栽培様式：条間 20cm 4条 株間 10cm
 栽植本数 26,666/10a 定植 2013年 12月 4日
 施肥 N-18kg/10a (その他は、「諫早湾干拓地における大規模環境保全型農業技術対策の手引き(追補版)」(平成 25年 3月長崎県)に準じた。